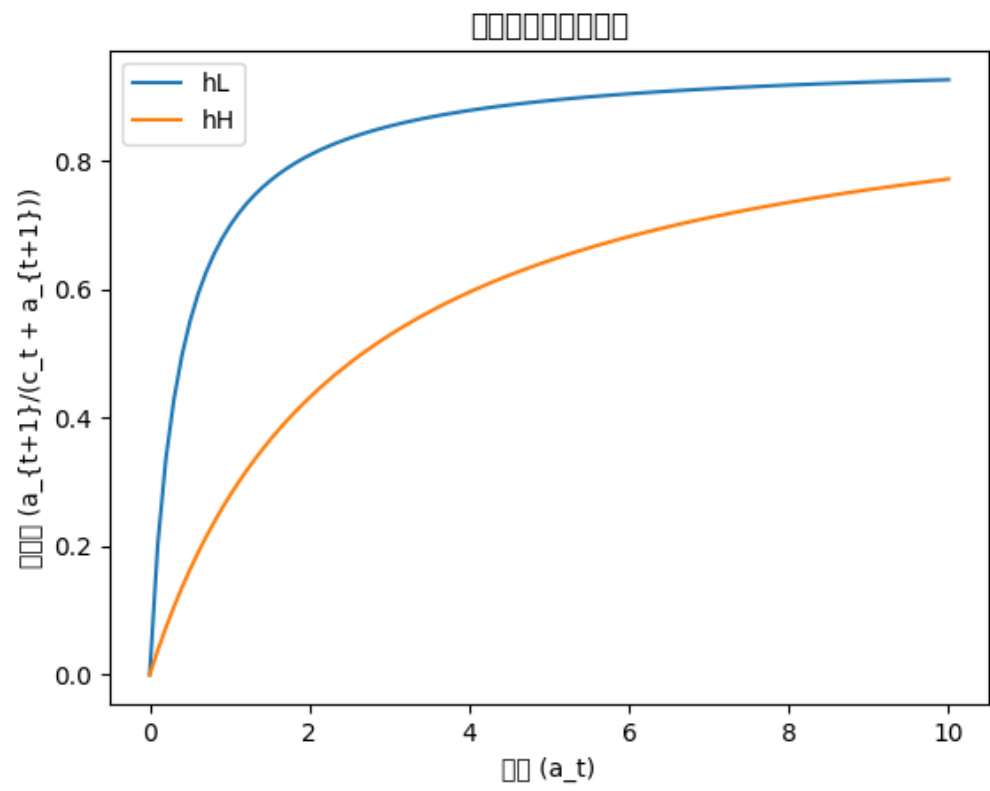
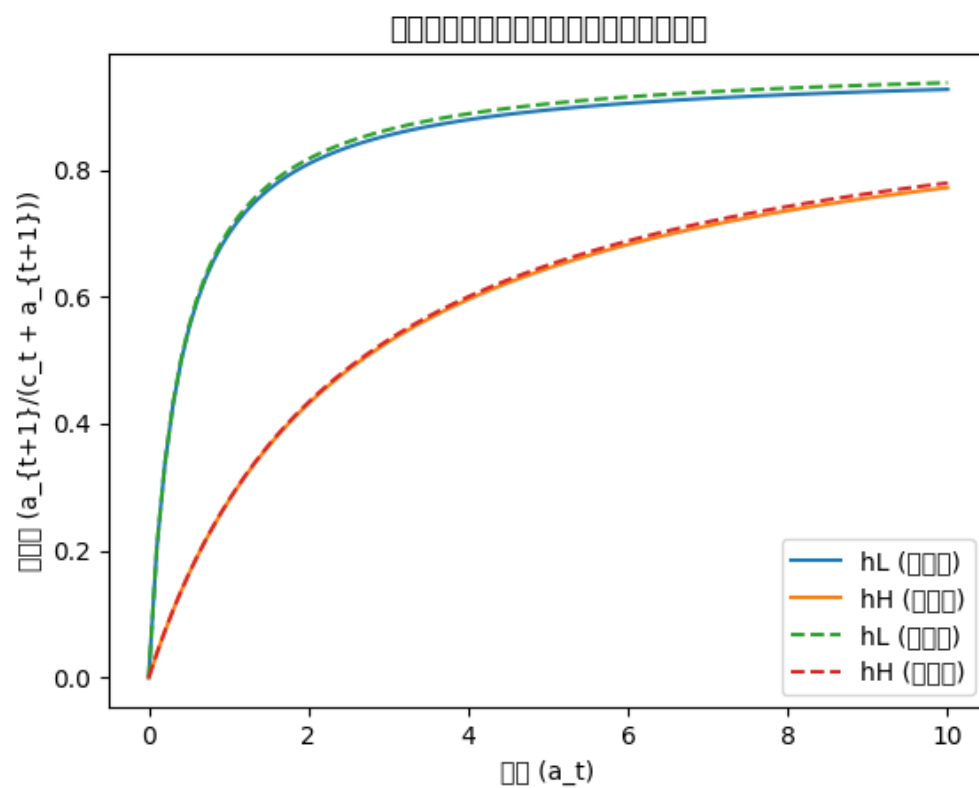


1.



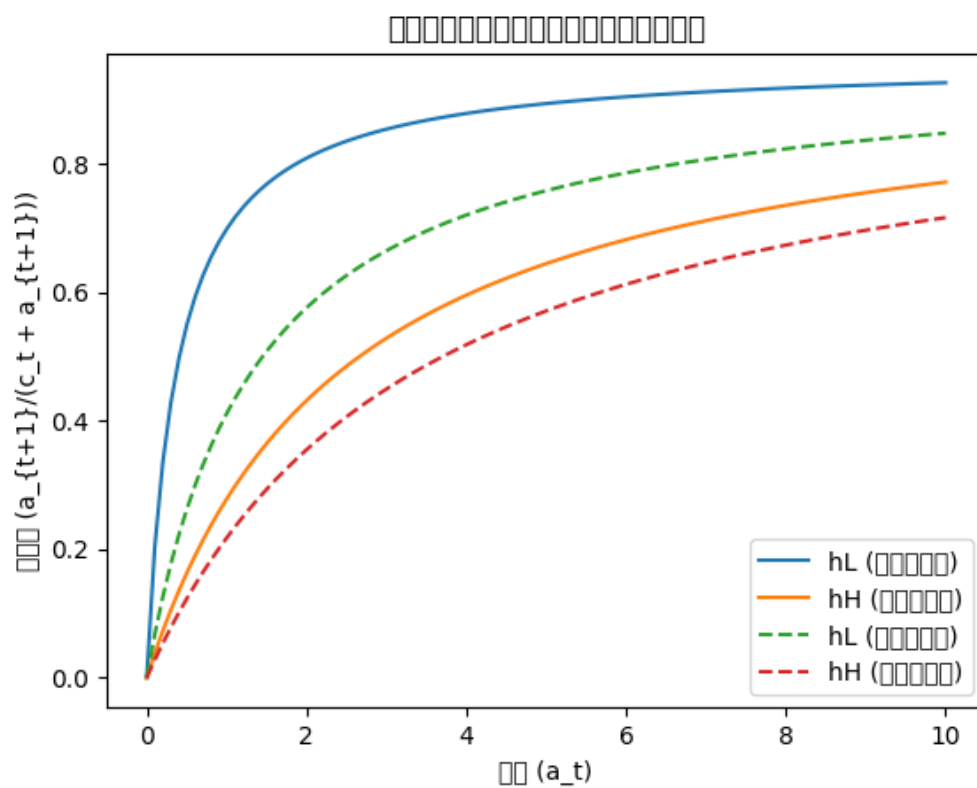
貯蓄率は現在の資産の増加関数である。その直感的な理由は、資産が多いほど将来の消費をより多く期待できるためである。家計は、将来の不確実性に備えて貯蓄を増やす傾向がある。

2.



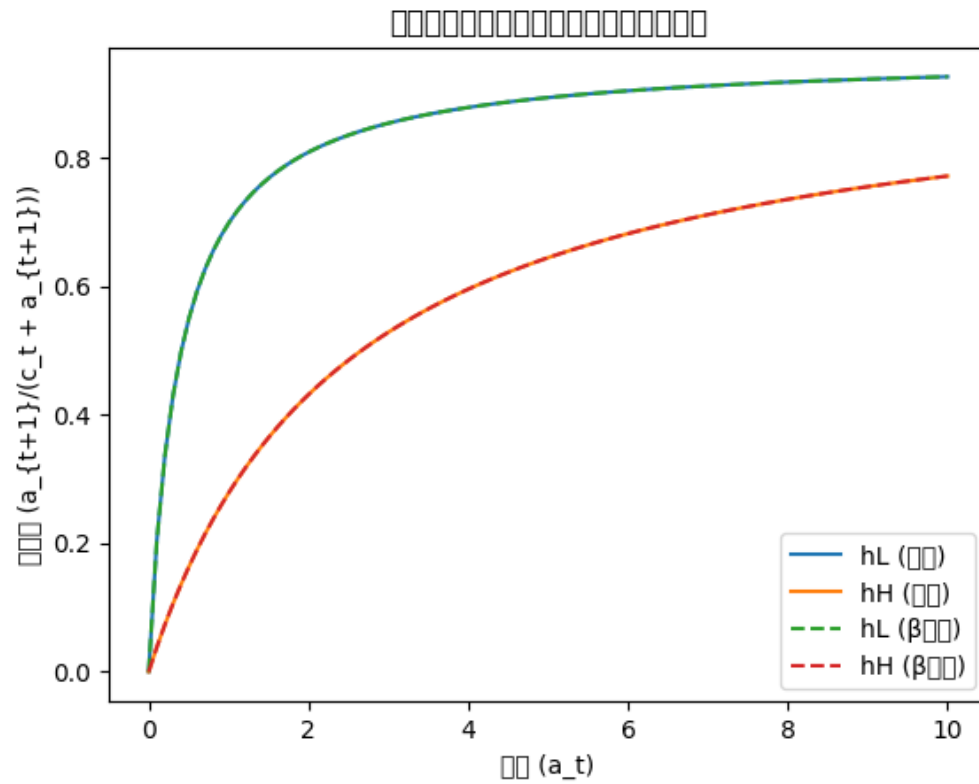
資本所得税の導入により、利子所得が減少し、家計の将来の資産増加が抑制される。そのため、貯蓄率は導入前より低下することが予想される。

3.



一括補助金の導入により、家計は追加の所得を得るため、所得が増加し、貯蓄率は減少することが予想される。

4.



時間選好率が低い場合、家計は現在の消費をより重視し、将来の消費に対する重みを軽くする。その結果、貯蓄率は低下することが予想される。